日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク

2013年2月9日 ニュースレター No.5

連絡先：大阪市生野区勝山北
4-9-12　Cafeナビ気付
Email：info@ianfu-kansai-net.org
URL：www.ianfu-kansai-net.org
振込口座：00980―3―209232
口座名義：日本軍「慰安婦」問題
・関西ネットワーク

2013年初春　私たちは新たな気持ちで

日本軍「慰安婦」問題の解決をめざします

■失望に終わった民主党政権と歴史認識の後退

2009年秋、民主党政権が誕生し、私たちは「今こそ、『慰安婦』問題の解決を！」と、2010年2月、各地の仲間と共に「日本軍『慰安婦』問題解決全国行動2010（全国行動2010）」を立ち上げ、全力で取り組んできました。しかし、民主党政府は、2011年8月に韓国政府が憲法裁判所の決定を受け、「慰安婦」問題は1965年の日韓請求権協定で終わっていないとして、再々協議を求めても、拒否し続けました。野党時代「戦時性的強制被害者問題解決促進法案」を8回にわたって提出した民主党ですが、その主張は大きく後退し、被害者と支援者を落胆させました。

一方、一部の政治家や市民の間で、これまで被害者や支援者、研究者らによって積み上げられてきた歴史的事実を否定し、歴史認識を後退させようとする動きが加速化し、領土問題などをめぐってナショナリズムを煽る動きも一層広がりました。違う意見を徹底して叩き、差別や人権侵害を助長する発言をためらわない動きが公然とまかり通る深刻な状況も生まれています。

■安倍政権の再登場と「河野談話」見直しの動き

昨年12月の衆議院選挙結果により、時代錯誤的な「憲法改正、自衛隊を国防軍に」と唱える第二次安倍内閣が誕生してしまいました。2006年の第一次安倍内閣では、自らと考えの近いメンバーを集めた「お友だち内閣」が批判を受けましたが、今回も19人の閣僚のうち、日本の侵略戦争を否定し、「慰安婦」問題も認めない「日本会議」メンバーや「日本の前途と歴史教育を考える議員の会」、「新憲法制定議員同盟」メンバーらが大半を占めており、まさにかねてからの主張である「戦後レジューム」からの脱却をめざす極右内閣といえます。

就任直後の12月30日、安倍首相は産経新聞のインタビューで、「河野談話」について「専門家の意見を聞き、官房長官レベルで検討したい」と述べ、「村山談話」については「21世紀にふさわしい未来志向の安倍内閣としての談話を発出したい」と語り、事実上「村山談話」と「河野談話」を見直す姿勢を示しました。

■相次ぐ国際社会からの厳しい批判

これに対し、各国から批判の声があがりました。米ニューヨーク・タイムズ紙は新年号の社説で「安倍氏の恥ずべき欲求」と題して、手厳しい批評を掲載しました。英国・エコノミスト誌は、閣僚名をあげて「安倍晋三が組閣したぞっとするほど右寄り内閣」と指摘、韓国や中国でも、「歴史に関する周辺国の批判を正面突破」などと批判の記事が出ました。さらに、1月13日のオーストラリアでの日豪外相会談でも、ボブ・カー外相が「慰安婦」問題に言及し、

水曜集会に参加しましょう！

梅田・ヨドバシカメラ前　毎月第１水曜日　19:00～
阪神間　毎月第２水曜日　18:30～
神戸市内　毎月第３水曜日　18:30～

「近代史でもっとも暗い出来事の一つであり、見直しは望ましくない」と指摘しました。同月17日、オバマ政権の高官も同様の懸念を日本政府に伝えたことを明らかにしています。米ニューヨーク州議会上院では1月29日、第二次世界大戦中の「慰安婦」問題に関して「非人道的行為」として非難する決議案を全会一致で採択しました。同議会下院でも同様の決議案が採択されるもようです。

これらの国際的な批判を意識したのか、1月31日、安倍首相は国会で質問に答え、「河野官房長官が表明したもので、首相である私からこれ以上言うことは差し控え、官房長官による対応が適当」と直接的言及を避ける一方、「この問題を政治問題、外交問題化させるべきではない」と表明しました。「河野談話」が閣議決定を経ておらず、また首相ではなく、官房長官の談話だから大した価値はないと言わんばかりの対応です。しかし、「慰安婦」問題はすでに政治問題化、外交問題化しているのは誰の目にも明らかです。今回、国際社会の非難を恐れて正面からの「見直し」論は展開しなかったものの、時期を見計らっているようです。翌2月1日の「村山談話」に対する答弁では、「21世紀にふさわしい未来志向の安倍内閣としての談話を、タイミングを見て出す」と表明しています。今は国際社会の批判をかわしつつ、「安倍談話」を出すことで、「河野談話」と「村山談話」の存在を打ち消すことを狙っているのではないでしょうか。

■安倍政権の本質と参議院選挙

では、安倍政権が狙っているその時期、「タイミング」とはいつでしょうか。７月参議院選挙での勝利を契機にすべてのことを思い通りに進めようと考えているのは明らかです。現在は経済問題を中心としながら、憲法問題や原発、TPP問題など、立場を鮮明にせず、安全運転で国民の支持を惹きつけようとしています。だからこそ、安倍政権の本質を見抜き、参議院選挙での勝利を阻止することが最重要です。

安倍政権登場で「慰安婦」問題解決への道のりはより遠くなったと感じられますが、ピンチをチャンスに、巻き返して行こうではありませんか。

その決意を込め、「全国行動2010」は「日本軍『慰安婦』問題解決全国行動」と改称し、再出発することになりました。今後は、国際連帯行動を強化するために国連人権機関等への働きかけと情報提供を継続する一方、金学順さんが初めて名乗り出た8月14日を日本軍「慰安婦」問題のメモリアルデー「戦時性暴力撤廃国際デー（仮）」と制定するよう国連に働きかけていきます。

しかし、最も急がなければいけないのは、日本社会の中で問題の解決を求める声を広げることです。

安倍首相は、第一次安倍内閣当時「強制性を裏付ける証拠はなかった」と発言し、各国から厳しい非難を受け、「河野談話」の継承と「慰安婦」被害者へのおわびを表明せざるを得なくなり、日米首脳会談で「慰安婦」制度が人権侵害だったことを認め、ブッシュ大統領に謝罪しました。にもかかわらず、今回再び「河野談話」の見直しに言及したことは、あの時の発言は口先だけだったと白状しているようなものです。日本軍「慰安婦」制度は、連行時の強制を含め、多くの資料や証拠が発見されており、誰も否定することのできない歴史的事実です。また、連行時に暴力で連れて行かれたのか、騙されたのか、人身売買であったのかが問題ではなく、連れて行かれた先で自由を奪われて受けた人権侵害、つまり性奴隷にされていたことこそが問題なのです。

こうした経過を踏まえ、7月の参議院選挙で私たちは安倍政権の本質をしっかり見極め、本当の意味で日本の未来を見据えた選択をしましょう。

引き続き、みなさんのご支援とご協力をよろしくお願いいたします。力を合わせましょう。

2013年2月

日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク

ホームページとメールアドレスの変更と ブログ開設のお知らせ

【新しいHPアドレス】 http://www.ianfu-kansai-net.org/

【新しいメールアドレス】 info@ianfu-kansai-net.org

【ブログ】 http://geocities.yahoo.co.jp/gl/ianfu_kansai_net

日々の活動の報告や、日本軍「慰安婦」問題に関する情報を発信しています。

過去のニュースレターもここで読むことが出来ます

橋下市長に反論！3回の連続企画を開催

多くの皆さまのご協力、ありがとうございました

■相次いだ橋下市長の歴史歪曲発言

橋下徹大阪市長は昨年８月から９月にかけて、日本軍「慰安婦」問題で歴史を歪曲し、被害者を差別し傷つける発言を繰り返しました。

「慰安婦という人たちが、軍に暴行、脅迫を受けて連れてこられたという証拠はない」(8/21)
「(吉見さんも）強制連行の事実までは認められないと発言している」(8/21)
「意思に反して強制されたかどうか、裏付ける証拠がない」(8/24)
「河野談話は最悪」(8/24)
「軍人の秩序を保つため、いわゆる慰安所が存在したのは日本だけではないし、風俗業は今でも世界各国に存在する。慰安婦と同形態の風俗業も存在する」(8/24)
「戦争遂行の一つの手法の中で、女性にそういう性の仕事をしてもらう、そういう事は全世界的にあった」(10/23)
「なんで日本のことだけを国際社会が非難しているのか」(10/23)

このような、癒えない傷に塩を塗り込む発言は、本当に被害者には耐え難かったことでしょう。
関西ネットは橋下発言を看過できず、すぐに行動しました。

■公開質問状と抗議文の提出

まず最初に発言のあった３日後の8月24日に、公開質問状を市長に持っていきました。この時私たちは市長への面談を申し入れましたが、拒否されています。橋下市長の二度目の発言は、その24日に行われました。橋下市長の「話し合うつもりはない」という強い意志と挑発がそこに込められていました。
そこで私たちは29日、橋下市長への抗議文の賛同人・団体の募集を開始しました。この抗議文は6,251人255団体の賛同を得て、9月24日、金福童（キムボットン）ハルモニと一緒に大阪市に提出しました。
なお公開質問状については、「発言内容が行政機関の長として発せられたものではなく、政治家として発せられたものであるため、大阪市としてお答えできません」という、なんとも人を小馬鹿にした回答が帰ってきました。

■橋下市長に反論する連続企画を開催

そして同時に、連続して様々な取り組みを進めました。
第１弾として、韓国から金福童（キムボットン）ハルモニをお迎えして証言集会を開催しました。金福童ハルモニは橋下市長の発言に怒りを込めて、「証拠を出せと言うが、私が証拠だ」と言い、来日を決意されたのです。9月23日は、会場に溢れんばかりの人を前に、証言を行いました。そして翌日24日には尹美香（ユンミヒャン）代表らとともに大阪市庁を訪ね、橋下市長との面談を求めました。その場での金福童ハルモニの毅然とした姿勢に、誰もが胸を打たれました。

第２弾として、東京から吉見義明さんをお迎えしました。橋下市長が8月21日の記者会見で「(吉見さんが）強制連行の事実までは認められないと発言している」と述べたことについて、吉見義明さんは「事実無根」として、市長との面談を求め10月23日、大阪市役所を訪れました。しかし、市長は前もって訪問の意思を伝えていたにもかかわらず、その場には現れませんでした。橋下市長はそうやって逃げておいて、またしても同日夕刻に記者会見で「吉見氏が強制連行を証明できないと言った」と事実を歪曲する発言を繰り返したのです。同日夜には緊急講演会を開催しました。吉見さんの事実を積み重ね、理路整然とした説明に、その場に参加した誰もが「強制連行はなかったなんて大ウソだ」ということを確信しました。

第３弾は、AIBOによる「大阪ええじゃないか」企画に参加、日本軍「慰安婦」問題をテーマにした映画『終わらない戦争』『オレの心は負けてない』『カタロゥガン！　ロラたちに正義を！』の上映とフリートークを開催しました。

■橋下行政のすすめる歴史歪曲作業

橋下市長は今なお、自らの発言を撤回したわけではありませんし、被害者に謝罪したわけでもありません。

そして大阪では現在、歴史歪曲の作業が着々と進められています。ピースおおさかは橋下市長の攻撃によって、展示内容を大阪大空襲に特化した、加害の歴史を消し去ったものにリニューアルされようとしていますし、「新しい歴史教科書をつくる会」に意見を仰いで、2015年までに「子どもが近現代史を学べる博物館」を建設するとしています。今、橋下市長が発言しないからといっても、被害者がこれまで20年訴え続けてきたことを全否定する動きは現実にすすんでいます。そして私たちはこの歴史歪曲の動きに歯止めをかけなければなりません。

橋下市長発言や安倍首相発言にみられるように、これまでに日本政府や日本の司法が認めてきた歴史的事実さえも否定し、被害者を貶める発言が絶え間なく聞こえてきます。今回橋下市長の発言を私たちは看過できず、行動を起こしました。

今回の一連の行動が、緊急であるにもかかわらず、抗議文に対して大阪、関西圏ばかりか、全国各地より多数の賛同が寄せられました。そして集会にも多くの方にご参加いただきました。

残念ながら橋下市長人気、そして衆院選での自民党圧勝を無視できない状況があり、一連の「慰安婦」発言が容易に人々に支持されることを私たちは恐れます。発言は嘘や曲解で塗り固められており、到底放置できません。みなさまの支援に大きな希望と勇気をいただき、また金福童ハルモニが困難を乗り越え、大阪の地まで駆けつけてくださった意を受けて、私たちはこれからも橋下市長に発言の撤回と謝罪を求め、そして安倍首相の歴史歪曲と右傾化をくい止め、被害者の思いを実現するために、引き続き、粘り強く行動を続けていきます。

追悼 黄錦周ハルモニ　「この恨を死ぬ前にはらそうと私は思っています」

黄錦周（ファングムジュ）ハルモニが1月3日亡くなられました。黄錦周ハルモニは、早くから「慰安婦」被害者として名のりでられ、日本にも何度か来日、証言をされています。怒りのこもった厳しい目と、しわがれた大きな声で日本政府の態度に怒りをぶつけておられた姿を、多くの方が記憶されていることと思います。

1992年8月には国連人権小委員会が開かれるスイス・ジュネーブへ挺対協代表団と訪問し、日本軍「慰安婦」として受けた経験を証言し、国際人権専門家たちに衝撃を与えました。米ワシントン・ニューヨーク・アトランタ、カナダ、そして日本など世界各地を廻り日本軍が女性に犯した蛮行を告発しました。

日本大使館前では「謝罪せよ！」「私の青春を返せ！」と身をよじって絶叫し、時には水曜デモを妨害する韓国警察に向かって「おまえたちはどこの国の警察だ！」と激怒しました。

ハルモニは工場の募集だと騙されて旧満州に連行され、慰安所生活を強いられました。憲兵の監視の下逃げることも出来ず、1日に20人もの兵隊の相手をさせられ、自殺する「慰安婦」もいたと証言しました。「今でも精液を思い出して牛乳を飲めません」とも。便所に行くときには外に出られたので「お母さんもこの空を見ているのかなあ」と空を眺めていると、それでさえ逃げる気かと兵隊に殴られたといいます。

この恨（ハン）を死ぬ前にはらしたいと語っていたハルモニ。晩年は認知症を患い闘病生活を送っていました。ハルモニの思いを私たちはかなえることが出来ず、ハルモニは亡くなられました。1月5日に葬儀が行われ、天安望郷の丘に眠る金学順（キムハクスン）ハルモニのお墓の隣に埋葬されました。

私たちはもうこのような無念の死に、何度も立ち会っています。このような悲しい思いは、もうゴメンです！

黄錦周ハルモニの遺言を胸に、私たちは日本政府の謝罪を実現するために闘います。

橋下市長！　日本軍「慰安婦」問題の真実はこれです

～　被害者ハルモニがやってきて語る　～

金福童ハルモニと梁澄子さん（全国行動共同代表）

■金福童（キムポットン）ハルモニを迎えて９月23日に集会「根拠がないというけれど、ここに証人が生きています」

９月23日（日）、大阪市住まい情報センターホールを埋め尽くした人々を前に金福童ハルモニは自らの身に起こった出来事を語られました。

14歳で日本人警察や村の班長らに「軍服工場」で働くと聞かされ、断れば財産没収などの脅かしを受けてやむなく従ったところ、連れて行かれたのは陸軍軍人の性の相手をさせられるところでした。５年もの歳月、陸軍第15師団本部に従って、台湾、広東、香港、マレーシア、ジャワ、スマトラ、シンガポール、バンコクと、あらゆるところを連れ回され、性奴隷生活を強いられたこと、人間としての扱いは受けず、機械のように、ときには一日数十人もの軍人の相手をさせられたという凄まじい体験を証言されたのでした。

「根拠がないというけれど、ここに証人が生きています。本人が生きているのに、根拠がないなんてあまりにも悔しくて、直接会おうと思ってやってきたのです」

そして、戦争と植民地支配のもうひとりの被害当事者である在日朝鮮人に対する差別にも言及しながら、次の世代のためにも過ちはきちんと謝罪し、法的賠償をして、互いに仲良く暮らせるようにしていただきたいと訴えました。

また尹美香（ユンミヒャン）挺対協代表からあいさつと、梁澄子（ヤンチンジャ）全国行動代表から、橋下発言への批判がありました。

■9月24日、大阪市役所要請行動　市長は姿を見せず

翌24日、私たちは事前の約束通り大阪市長との面談と抗議文伝達のため、金福童ハルモニ、尹美香（ユンミヒャン）挺対協代表とともに、大阪市役所を訪問しましたが、市は「市長との面談はできない」の一点張りでした。

市庁舎前には抗議の声をあげる仲間たちが多数駆けつけ、私たちは一階のロビーで「橋下市長は出てきて被害者に会うべきだ」と抗議し、金福童ハルモニも「市長に会いにきました。会うまで帰れません」「言ったことに責任を取れないから出てこれないんでしょう。自分で責任がとれないことを言わないでください！」と毅然と話されました。これにより面談室は地下の会議室から８階の議会会議室に変更され、秘書部部長が対応することになりました。

金福童ハルモニは、橋下市長に直接訴えることのできない悔しさを滲ませながら、しかし静かに、「これから話すことは一言一句漏らさずに伝えてほしい」と、到底拒絶できない状況下で、しかも「軍服工場」との偽りの言葉に騙されて、日本軍の性奴隷となった壮絶な体験を話されました。「そこは戦場だったから民間人はひとりもいませんでした」「二度と金儲けのために自分の意思で勝手に行ったなどと言わないでください」と、橋下市長に向けて訴えました。

私たちはこの場で、この日までに集まった255団体、6,251人の賛同を集めた抗議文を手渡しました。

最後に、今後も市長の面談を求め、発言の撤回と被害者への謝罪を要求していくことを伝えて面談を終えました。

「市長に会うまで帰れない」と抗議する金福童ハルモニ

橋下市長に反論
吉見義明さん語る　～強制連行はあった

橋下市長が8月21日の記者会見で「(吉見さんが)強制連行の事実までは認められないと発言している」と述べたことについて、吉見義明さんは「事実無根」として、市長との面談を求め10月23日、大阪市役所を訪れました。しかし、市長は前もって訪問の意思を伝えたにもかかわらず、その場には現れませんでした。吉見さんは抗議声明を提出、文書による回答と、公開の場での謝罪を求めました。

夜には緊急講演会を開催。市長の主張を具体的事例を挙げながら、反論しました。とても分かりやすく、吉見さんの誠実な人柄があらわれた講演でした。

橋下市長は強制を「軍・官憲による」「暴行・脅迫」に限定し、そして証拠を公文書に限定し、「証拠はない」と主張します。しかし吉見さんは反論します。占領地では軍による略取は数多くあったし、植民地では軍が選定した業者が誘拐や人身売買をもって連行していたと。そして連行の形態が問題なのではなく、慰安所での強制使役こそが問題なのであり、それゆえ性奴隷制度なのだと喝破されました。また証拠はないというが、裁判では尋問も証拠として採用され、「慰安婦」裁判で事実認定された内容も証拠であるし、公文書に限定するのはおかしいと、具体的な事例を用いて説明しました。

抗議文を手渡す吉見義明さん（左）

橋下市長の嘘に満ちた主張を、許しておけません。事実を拡げるために、私たちも自分の言葉で反論できるよう勉強しなければならないと再確認しました。

橋下市長！日本軍「慰安婦」問題の真実はこれでＰａｒｔⅡ
映画で知ろう日本軍「慰安婦」問題

「いろんな人たちの思いをカタチに」をキーワードに、湯浅誠さんらが中心になって活動しているAIBO主宰の「大阪ええじゃないか」フェスタが、11月24日～12月2日に開催されました。

関西ネットでは「橋下市長！日本軍「慰安婦」問題の真実はこれでＰａｒｔⅡとして住吉区民ホールを会場に、「慰安婦」問題を扱った３本の映画「終わらない戦争」、「オレの心は負けてない」「カタロゥガン！～ロラたちに正義を!」上映会と、フリートークという内容で参加しました。企画の際に願っていたとおり、日頃お見かけしたことのないような方もご参加くださり、フリートークの若いメンバーのフレッシュさもあって、充実した内容となりました。また、最終日の12月2日には、扇町公園周辺で行われた「ええじゃないかパレード＆フェスタ」に、チマチョゴリなど思い思いの衣装を着て参加しました。

トークする若い人たち

映画＆トーク参加者の感想の抜粋を紹介します。

「オキナワの人々、『慰安婦』の方々･･･オキナワに対して本土、そしてアジアに対しての加害者であることに我々は自覚が足らないように思います」（終わらない戦争）、「ウソのないハルモニのことば、胸がつまりました」（オレの心は負けてない）、「若い人達が懸命に取り組んでいることに勇気づけられた。心から感謝します」（トークには最も多くの感想が寄せられました）、「フィリピンで戦争中何があったのかよくわかりました。ロラの話は胸に迫るものがありました」（カタロゥガン！）、「『慰安婦』問題も含めて、戦争を起こしてはならないということ、戦争責任を明確にしなければならないとあらためて思いました」（全体の感想）

今後も被害者の思いを拡げる取り組みを進めます。

第11回日本軍「慰安婦」問題アジア連帯会議報告

8月14日戦時性暴力撤廃国際デー（仮）にむけ世論形成を実現しよう

2012年12月8日から11日まで、台湾・台北にて、第11回日本軍「慰安婦」問題アジア連帯会議が開催されました。韓国・台湾・フィリピン・中国をはじめとする世界各国、そして日本から多くの人が集い、日本軍「慰安婦」問題の解決に向けて何が必要か、何をするべきかを話し合ってきました。

会議には台湾の鄭陳桃阿媽、韓国の金福童ハルモニ、フィリピンのロラ・エステリータ、そして中国からは南二僕大娘の娘の楊秀蓮さんも参加しました。

12月9日朝、台湾の馬英九総統が会場に来て、被害者と私たちの前で挨拶しました。

「日本軍『慰安婦』問題は世界中に知られている。国連が正式に調査し、性奴隷と認めた。でも日本は認めない。このことを私は遺憾に思う。それどころか橋下市長など日本の一部の政治家は「証拠がない」とこれを否定する。私はそれに憤りを覚える。」

「私たちにも恥ずべき歴史がある。2・28事件では我々も謝罪し、補償し、祈念碑を作った。このような行動は最もパワフルなことだ。」

被害者と肩を組む馬英九総統

どこの国にも負の歴史があります。それを乗り越えることが「パワフル」であって、それは日本の右翼の言うように、決して「自虐」ではありません。

馬英九総統と会議に参加した私たちに対し、金福童ハルモニは戦争が終わったことさえ知らされなかった辛い過去を訴え「お金が問題ではない。政府は解決しようとしていない。団結して日本の過ちを認めさせたい」と仰いました。ロラ・エステリータは「日本に直面視させたい。私たちは死ぬまで闘うし、私が死んでも子どもたちが闘うだろう」と仰いました。鄭陳桃阿媽は「戦争の時日本人は本当に野蛮だった。少女の時を思い出すと何も口にできない。言いたくないです」と口を閉じられました。

12月9日に丸1日かけて「「慰安婦」への支援への現在の状況と将来の展望」「国連の行動と政治活動」「「慰安婦」問題の教育と歴史の継承」と3つの課題についての各国の報告と話し合いがもたれ、10日の午前に全体で討論して、6項目のアクションプランをまとめました。（文面は要約しています。）

① 日本政府に圧力を与えるため、被害国と国際社会の協力を求める
② 8月14日を日本軍「慰安婦」問題のメモリアルデー「戦時性暴力撤廃国際デー（仮）」と定め、8月15日の週にキャンペーンを開催
③ 被害国等に、国連や国際人権団体との連携を求めることを勧める
④ 国際女性人権運動との連携を強める
⑤ 日本政府官僚や有名人が侮辱的な発言をした際に即時反対する
⑥ 歴史教科書、博物館等、「慰安婦」問題の歴史の伝承と教育の重要性を強調する

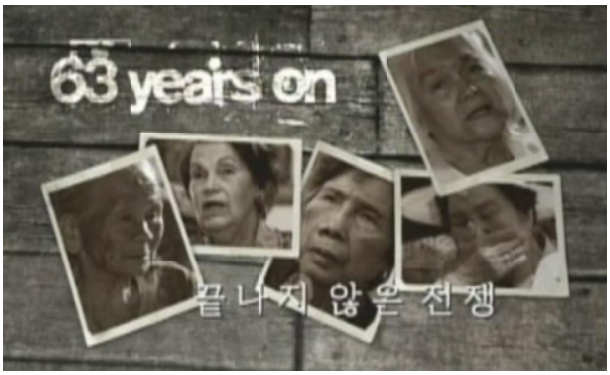
アクションプランの中でも、私たち日本社会で運動する者にとって喫緊の課題は、8月14日をメモリアルデーと定め、その日に向けて積極的なキャンペーンを行うと決めたことです。8月14日とはもちろん、金学順さんが名乗り出た日です。日本軍「慰安婦」問題での国際的な記念日を定めたのは、これが初めてのことです。この日が日本軍「慰安婦」問題を考え、行動を起こす日であるということを、日本社会の共通認識にしなければなりません。

8月14日まであと半年。その間に様々なキャンペーンを行って、たくさんの人々に日本軍「慰安婦」問題について考えてもらうこと、日本軍「慰安婦」問題は日本政府がキチンと謝罪するまで終わらないのだという認識を、広めなければなりません。

安倍政権の河野談話否定の動きを批判し、被害者たちの思いを日本社会に定着させ、日本政府の謝罪と補償を実現させるため、一歩一歩取り組みを進めましょう。

映画「終わらない戦争」を観よう！

知ることから始まる 日本軍「慰安婦」問題の解決



■映画「終わらない戦争」を見た高校生・大学生から感想文がたくさん届いています■

「戦争について、これまで他国から受けた日本の被害しか知らなかった。知ることができて良かった。」「受け入れることがとても悲しく、つらかった。未だこの事実を受け入れようとしない日本に腹がたち、早く謝ってほしい。」「『慰安婦』があったことを忘れない、伝えることが大事。」「謝罪しているなら教科書に載せるべきだ。結局は逃げているとしか思えない。いつか女性、女の子に対するレイプや売春や差別がなくなってくれたらいいなと思う。」「今も被害者が苦しんでいるのを知って、彼女たちにとっては現実で、今更なんてことはないんだと思う。」

■　証言が示す歴史的事実■

この映画では、オランダ、フィリピン、中国、韓国の５人の「慰安婦」被害者が、日本軍性奴隷被害者として戦中戦後の苛酷な人生を証言します。安倍首相や橋下市長が「強制性を示す文書はない」と繰り返し言っても、彼女たちの体験が暴力的な強制性を示す証拠です。金東元（キムドンウォン）監督は、2007年、アメリカ下院が日本政府の謝罪を求める決議の際に「日本は歴史をわい曲し、否定し、被害者を非難する一部の日本人の行動には吐き気がする」と断じたレントス議員の映像をしっかりとこの映画に記録しています。日本政府は何故謝罪をしなければならないのか、日本社会は何故この問題に向かい合わなければならないのか、この問題に関わりのある研究者や政治家などにインタビューし、日本軍「慰安婦」問題の歴史的な背景や本質に迫っています。

多くのみなさんが歴史の事実を知り、真摯に向かい合い、政府に解決を迫っていくために、「終わらない戦争」が観られるよう願っています。貸出の収益金は、今も世界で起こっている戦時性暴力被害者を支援する「ナビ基金」に募金します。

なお、授業・ゼミなどで生徒・学生を対象に上映会をされる場合にはDVDの贈呈をしています。「申込み書」をお送りしますのでご連絡ください。また、学生などを対象にした上映会にはDVDの無料貸出もしますのでご相談ください。

「終わらない戦争」（2008年/韓国）
金東元監督/ＤＶＤ/上映時間60分
上映１回につき５，０００円
１０人以下の参加者の場合、一人５００円
収益金は戦時性暴力撲滅のための「ナビ基金」に寄付します。
貸出申込みはホームページにて↓
http://www.ianfu-kansai-net.org/63years_on/

お　礼

９月２３日の集会に際して、全国からたくさんの皆様にカンパを寄せていただきました。以下、感謝の思いを込めて、９・２３集会会計報告をさせていただきます。

収入

カンパ	391,900
チケット売り上げ	187,600
当日参加費	239,900
計	819,400円

支出

会場使用料	36,480
プロジェクター使用料	4,100
ゲスト招請に関わる経費	311,529
横幕製作料	5,400
紙代・印刷代	16,918
集会チラシ送料	46,800
手話通訳者への謝礼２人分	10,000
打ち合わせ会議部屋代	1,800
駐車料金	15,100
雑費	10,659
計	458,786円

差し引き残高　360,614円

残金は、吉見義明さんをお招きしての学習集会・橋下市長への申し入れなど、「慰安婦」問題解決のための活動に大切に使わせていただいております。
本当にありがとうございました。

ご支援を、よろしくお願いいたします。